

様式第4号（第7条関係）

令和6年度 第1回総合教育会議議事録			
日 時	令和6年12月2日 15時30分～17時15分	場 所	竹富町役場3F 庁議室
出席者	<p>【委員6名】 前泊正人町長、佐事安弘教育長、嘉良寧教育長職務代理者、川満晃弘教育委員、仲底傑教育委員、松原史教育委員</p> <p>【関係課及び事務局6名】 新城寛樹教委総務課長、西原智教委教育課長、西波照間優教委社会文化課長、小濱啓由政策推進課長 大屋裕次教委総務課長補佐、津嘉山翔政策推進課長補佐</p>		
協議事項	<p>①教育委員会定例会について ②小中一貫校・義務教育学校について ③海洋教育の成果と今後の取り組みについて ④その他調整・協議事項について</p>		
経過及び結果	<p>冒頭（町長） 本会議の議事は4点お示ししている。 先ほど教育委員会事務局からも教育委員会制度の変更により、「総合教育会議」が設置されたということだが、就任してから、各学校を訪問して意見交換を行ったりと取り組んでいるところで、本来ならそうあるべきだと、私は教育委員会と町長部局が一体とならなければ教育行政は進んでいかないと考えている。現場の先生方のご意見もそうですし、一番は子供たちがどういう環境で教育を受けているのか、また、危険箇所はないかとか、そういうことを鑑みた際に、予算措置の最終決定権者は首長であり私の仕事だと思っているため、当該会議はしっかりと行っていくべきと。そして、まだ会議は始まったばかりではあるが、次年度は4月に第1回目を開催したいと思います。適宜必要であれば第2回目をどこにもっていくか調整を図っていく。年度スタートの段階でこの年度はどのような形でいこうという確認をしながら、途中で進捗の確認を図り、年度末に子供たちの状況を確認し、次年度の方向性を決めていく、最低でも年3回ぐらいはしっかりと情報共有をして参りたいと考えている。議事に入る前に私の思いを述べさせていただきます。</p>		

【議事①：教育委員会定例会について】

(町長)

現在、教育委員会定例会が年6回開催されている中で、こういった内容が議論されているのか。

(教委総務課長)

令和6年度教育事務点検評価報告書のP5～8において、定例会の会議開催が6回、付議件数が45件、臨時회가1回、付議件数が5件で計7回の開催で50件を審議している。そのうち報告事項が32件、その中で竹富島の伝建に関わる部分が20件、議案事項が18件の50件となっている。ちなみに今年度においては、去った11月26日に第7回まで終わりを報告が現在38件うち21件が伝建案件、議案が6件となっている。

(町長)

この件に関して、率直的な感想は、あまりにも伝建のところの報告が多い。専門的なところは審議会等で議論されてきたものだと認識しているため、定例会の議案として、もっと子供たちに関するものを増やしてほしい。この件について、教育委員の皆さん含めてご意見を賜りたい。

(川満教育委員)

足を運んで教育現場の声を聞いて、それを定例会に上げる方が、皆さんの共有にもなると思う。

(教育長)

この件に関しては、審議にて専門的に審議している案件のため、事前に資料を共有した上で、定例会においては承認という形にして、議題に移るようなことはできないのか、このあたりどうか。

(教委社会文化課長)

おそらく内容については、把握いただくことを省略できないと思料するため、この報告を簡潔化し、時間的にも他の議案に内容を濃くした方がいいということで、私は今の教育長の話には賛成である。

(町長)

ここの整理ができるまでの間の運用について、報告の取り扱いはもう中でやってもらってもいいかなと思いますけども、機構改革の中でここは議論してもいいのかなと思っているので、ここは継続的に考えたい。

(教育長)

教育委員は、各島・地区ごとに大体割当られており、地域に入って住民の声とか、子供の声とか、これをたくさん委員の皆さんが聞いてくると思う。例えば、事務局から今回の定例会はこんな議案があるというだけでなく、逆に委員の皆さんも自分たちで地域から上がった声を議案として提案してもらおうことも一つの方法だと思う。

(町長)

これはもちろんやるべきだし、教育委員の皆さんも就任後から時間も経過

し要領を得てきたものと思うので、教育委員会事務局ともしっかりとコミュニケーションを図って、地域の課題・教育の課題への議論を深めていただきたい。

【議事②：小中一貫校・義務教育学校について】

(町長)

竹富町の併置校のあり方と近いのかなという認識の中で、具体的に一貫校、義務教育校について、姉妹町である斜里町が先に取り組みられているところもあるので、今後どう考えているのか、私はしっかりと取り組んでほしいなと思っているが、そこら辺の説明をまずお願いしたい。

(教委教育課長)

お手元の資料に沿ってご説明する。

義務教育学校と小中一貫小中学校についてそれぞれメリット等を掲載している。左側が義務教育学校、右が小中一貫校というくくり。

まず、終了年限について、年はいずれも義務教育の9年間。ただし、この区分については、義務教育学校、例えば前期6年、後期3年としたり、4年3年2年と分けたり、5年4年に分けたりと市町村の実態に応じた区分にすることが可能。もちろん小学校6年、中学校3年もOK。組織運営については、義務教育学校は1人の校長、そして一つの教職員組織、小中一貫校はそれぞれ小も中もそれぞれに校長がいて、教職員組織も小学校の先生、中学校の先生ということで、現在の竹富町の小・中学校をイメージしていただければと思う。免許について、一番沖縄県として課題になっているが、原則義務教育学校の先生は小学校と中学校の免許を併用・両方持っている必要がある。現在、竹富町内で小中の両方の免許を持っている職員は2人しかいない。沖縄県にも数名しかいない状況。

ただ、中学校と高校はほとんどの中学校の先生が中高を持っている。私も中高持ってはいるが、このように小中を持っている先生がほとんどいないため、それが一つの壁がある。

施設の手続き等については、義務教育学校は市町村の条例にかかってくる。学校については、一貫に関しては現在の通り、市町村教育委員会が設置者となる。町長、教育長から話を聞く限り、斜里町のウトロの義務教育学校は、とても良い取り組みをしていると感じた。

昨年校長会の中でも教育長から資料をいただいて共有をしている。しかし、同様な条件ではできない、難しいのは把握しているが、やるためにはどうしたらいいかということで教育委員会として、スケジュール感を持って取り組みたい。

まず町内で設置するとなれば、まず西表島の東部と西部に1校ずつ、東部は大原小と大原中を義務教育学校、その場合に学校同士が離れていますので、施設分離型にするのか、またはどこかの学校に校舎を建てて一体にす

るのか、今後すぐではないがこういう方向が一つ考えられる。  
西表西部の上原小と船浦中ここも同じようにだが、将来的には竹富町の今後の10年20年先を考えると、白浜、西表、船浮の西部地区で学校の一つにまとめる案も持っていないといけないと思っている。

また、北海道は学校間の距離が何十キロ60キロ以上あっても、給食も運んでいるということで、竹富町は2、30キロぐらいの距離のため、そこは学校の一つにして、もっと言えば東部から白浜まで給食を運べる距離ではあり、将来的なビジョンは必要と考える。

今後の取り組みとしては、例えば7年度にかけて情報収集が必要であり、先進地区の視察など、それから準備委員会、検討委員会を立ち上げることを想定。地元の保護者、教職員等へアンケート調査を行い必要性や意向等をしっかり把握してから次のステップへ行く。沖縄本島的那覇地区の一部においては、小中一貫を数年前からやっており、大規模校だが、その退職した校長先生を招聘して、委員会と上原小と船浦中の三者で、勉強会をする予定だったが、台風で2回延期になってしまってまだできていない。早く令和8年から地域保護者への説明、そして9年度あたりから分離型の小中一貫校、または小中義務教育学校ですね、そういう形で進めていきたい。また、今の制度・法律が今後緩和されるともう少し柔軟な対応ができるかと、その変更もあり得るということで、今すぐに進めるのではなく、しっかりと十分検討して、ビジョンを持って進めたい。

義務教育学校になった場合は、どちらの学校の名前でいくか、どうつけるかも課題の一つ。例えば、大体の学校は何々学園になったり、例えば上原小と船浦中の場合、上村学校とか〇〇学園とか、校章が変わる校歌が変わる、いろんなものが出てくる。ただ、そういった中においても、できないのではなく、できる方法をまた見いだしながら、町長のこういう基本的な考えがありますので、委員会としてもそれが実現できるかどうか検討しながら進めていきたい。

(町長)

ありがとうございます。

まさに一番はやっぱり子供たち。そのためにどういう教育運営をしていった方がいいのか、今の併置校のままでいいのかこれから先を考えたときにメリットデメリットがあるとは思う。あとはやっぱり学校名が変わる校歌が変わる可能性について。やっぱり伝統があるそれぞれの学校に思い入れがある方々が多くいると思うので、そういったところが変わったとしても子供たちにはこの方がいいんだって言うような提案ができるような形でいろいろ準備委員会や検討委員会を立ち上げてしっかり議論をしてほしいと思っている。

(松原教育委員)

斜里町の方では事例があるとのことで、竹富町でも小中一貫で進める考え

というところだと思うが、一気に全部ということはもちろん難しいため、どこの学校を優先してということでおそらく進めていくと思う。

その中で西表島よりは、竹富島だったり小中が一緒になっている学校のところから事例を作っていた方が西表島の小学校、中学校を統合するという話よりかは進めやすいと思料。小浜小中学校でいえば、子供も小中行かせており、小学校から中学校に繋げる連携のところは、学校の先生方がしっかり取り組まれて見えるので、とても良い方向性だと思う。区切りのところも様々な形で設定することもできるとのことで、さきほどの説明を聞いて、もうメリットしかないかなというふうに考えている。そのため、実現に向けて一緒に考えていけたらと。

(嘉良教育委員)

先ほど教育課長から、教職員の免許で小中両方の免許を併用してもっている方が2人しかいないと話があったが、これをやる場合は中学校の先生が小学校の授業を教えたり、小学校の先生が中学校の授業教えることもあると思うが、こういった場合、この免許状のあるなしで、かなりまたハードルが高くなったりすると考えるが、この辺はどうどういうふうな感じでお考えですか。

(教委教育課長)

実は、竹富町は全国でも例がないことだが、中学校の先生に小学校の兼務を発令している。例えば中学校は教科なので、その教科に限って小学校の授業もできる。しかし、小学校の先生は小学校という免許のため、中学校の勉強・専科じゃない中学校を教えることができない。竹富町へ配属される教員へは、赴任する前から兼務発令と説明し、最初の4月2日に行う会議の中で、教育長の方から新しい先生方全てに中学校の先生方は小学校の授業を見る必要がある、見てくださいというお願いをしているところ。

そのため、中学校の先生を多めに配属してもらい、小学校の応援することは、今の竹富町のスタイルであり、義務教育学校でなくとも、竹富町型の一貫校の土台がもうすでにできているため、それを斜里町のようにまたそれプラスいろんな行事を一体化したり、学校教育目標を一つにしたり、いろんな取り組みがあると思うので、委員からもあったように小浜小中学校とかそういうところをモデル校として、今あるものにさらにバージョンアップした小中併置校のあり方も、とてもいいアイデアだと思う。免許面はこれで今クリアしている状況。

(町長)

まずは、保護者に対して、今の併置校の状況、義務教育学校・小中一貫校のメリットデメリット、町の考え等を説明し、意見をいろいろ広く聞いて具体的にに向けて進めてもらいたい。

(教委教育課長)

船浦中の校舎が例えば5年10年で建替期限を迎えるということであれば、

今上原小学校の場所に中学校を作れば、保幼小中と五つを西部で一つというような形で、西表や白浜もどんどん巻き込むような取り組みも可能性の一つと考える。

(町長)

非常にいい提案。中長期的な計画を持っておくことが重要であり、特にその一つの基準となるのが校舎の対応年数、建替期限がいつ来るのか、今みたいに上原小学校の付近にどれだけの敷地に空きがあるのか、そこを含めて整備したら、確かに複合型施設も近くにあり、行事や施設マネジメントの観点からも効果的と思われるため、そういった議論を普段の定例会からやって、基本構想だったり計画だったりという形で進めてほしいと思う。

### 【議事③：海洋教育の成果と今後の取り組みについて】

これまでの経緯を簡単にご説明する。

令和元年海洋教育パイオニアスクールに参加し、本格的に海洋教育がスタートした。海洋教育推進委員会を設置し、海洋教育基本計画を策定した。三つのマスコットキャラクターについて、児童生徒からの公募により決定している。それから副読本編集委員会を設置した。海洋教育サミットについて、明日また今年度のサミットを予定しているが、年1回開催している。令和3年度には海洋教育の基本副読本が完成した。そして、7月1日から7日間を海洋教育週間、7月の第1金曜日を海洋教育の日と制定した。海のデジタルフォトコンテストをスタートした。この受賞作品は現在と同じようにカレンダーにして各学校に配布している。令和4年度で海洋教育パイオニアスクールプログラムが終了している。

これまで7月1日を海洋教育週間、そして7月の第1金曜日を海洋教育の日と選定していたが、わかりづらいということで、またこの習慣に何かやらないといけないかと、学校が学期末で忙しいと学校現場からいろんな意見があったため、これを7月1日から8月31日の2ヶ月間を海洋教育月間と定め直し、この間に海洋教育に取り組んでほしいと。これは実を言うと、海洋教育は学校だけでやっていたというのが当初スタートだったため、これはやっぱり地域に広げたいということで、夏休みの子供会のキャンプであったり、親子で夏休み中に海洋にちょっと親しんだり、写真を撮ったりということで、これは令和4年度に私の方で月間に変更してより幅広く取り組みできるようにした。令和5年度昨年度に海洋教育の基本計画を一部改定した。これがこれまでの経緯である。

海洋教育と目指す四つのステップが次のようにある。これは順番通りにやるのではなく、この四つを行ったり来たりしながら、学年に応じた取り組み海洋教育の意識、郷土愛を育てたり、そういうことで順番じゃなくてこの全部をやるということで進めている。

そしてこれまでの取り組みから見える子供の変容ということで、特にこの

発表力、他者に伝える力がついてきた。これは海洋教育サミットであったり、学習発表会、そして地域での発表とか、また、以前は県外に行って発表したりと、そういうところでやっぱり子供たちの発表力がとてもすごいということで好評を得ている。それから、県内県外の、または海外の学校とオンラインの交流がもう本当に普通にできるようになっている。子供たちは、堂々と海外の子供たちとも交流ができるレベルにきている。

海洋教育はもう十数年前からやっているが、体験で終わっていた。海洋教育に取り組むことによって、それをまとめて発信し、記録に残すという取り組みが、これまでの海洋教育でだいぶ変わってきた部分があり、今後の取り組みについて四つのステップを大切にしながら、各学校で持続可能な活動にしていきたいと考えている。例えば予算がないからできないとか補助金が少ないからできないのではなくて、あってもなくても、地域の人材を活用して、持続可能な各学校・地域に応じた海洋教育、これを推進したいと思う。あとやっぱり活動に適切な予算配分、これまで笹川財団がやっていたときは年間1000万以上予算があったが、今は各学校年間上限を10万となっている。それを使い切れないところもあるし、ただ学校が独自に笹川財団に、学校単位で応募して30万円補助金をもらっているところもある。あと、他校の海洋教育活動の共有ということで、例えば西表島でも東部はウムズナー取りがあるが、西部はない、それからまた星砂取りは鳩間しかない、といった島それぞれの活動があり、また他の島でできないことを川がないとできない活動もある、そういう活動を外に発信も大切だが、やっぱり町内のいろんな学校の活動を共有することに今後は持っていきたいと考えている。それから包括的連携をしているゴールドウイン、また先日寄贈のあったロータリークラブとか、町長の紹介でJAXAの方とも交流ができ、今までは海洋教育、海洋・海だけだったが、宇宙から海を見直してみようということで、対プラスチックゴミ海だけじゃなくて、大気中のマイクロプラスチック等、そういう角度を変えた違った視点から海洋教育を進めていきたいということで、次年度はこのJAXA、宇宙から何かの形で交流をしたいと相談しているところ。

それから斜里町の学校と海洋教育の交流がない。斜里町との5年間に1回の児童の交流はあるが、体験の交流だけじゃなくて、授業の交流、これは海洋教育を中核として各教科いろんな教科で交流ができたかと考えている。

(町長)

これまでの取り組みについて、成果発表力がついているところは本当に子供たち、ニューヨークの子供たちとのオンライン交流や漂着ゴミについても町長提言もあって素晴らしかったから議会の議場でも発表してもらい、あとは私も海洋教育についての発表にあるときはこっちでも聞いたので、そういうところをどんどん伸ばしていってあげたいと思う。

世界と繋がるとか、宇宙から自分たちの場所を確認できるとか、広く子供たちには視野を持ってもらいたいなと思っているので、ぜひしっかり取り組んでほしい。また、ゴールドウインとも包括連携を組んでいる中で、結構アウトドアブランドのところもあるので、そこら辺とも連携をしながらできたらいいし、いろんな団体が気にかけてくれ子供たちのために応援をしたいと御寄附をいただいたり、様々な取り組みの後押しをしていただいているところもあるので、私も先頭に立って竹富町の子供たちのためにというところでアピールをしながら、予算財源の確保もしながら、取り組んでいきたいと思う。

(川満教育委員)

船浦中と上原小については、ビーチクリーンは学校単位で計画してやっています。特に今の時期は北風がすごく、漂着ゴミがかなり多い状況で、小学校の子たちだけでは取りきれない部分は地域の人たちも進んでやっているところ。船浦中に関しては、ビーチクリーン+サンゴの取り組みも結構やっており、サンゴが今どういうふうになっているのかっていうのをピンポイントで観察できるような取り組みをやっている。

海洋教育はとてもいいと思うので、将来子供たちが、西表は特にそうなんすけど、山から川そして海に繋がるという関連性・重要性を学んでもらうため、森本さんと呼んでの講話を控えていて、その後マヤグスクの滝へのトレッキングも今計画しているところ。

(仲底教育委員)

先ほど島の交流や他校の海洋教育活動の共有ということで、10月の海洋教育で参加して、黒島の方は、小中学校わかれてシュノーケルの方に行った。自分の島のことで恥ずかしい話だが、ショップの店長の方に黒島の良さっていうものを、観光客はわかっているが地域の人でもわかっていない部分があり、地域の人にも見てほしいっていう思いがあるっていうことを言っていた。何かというと、今黒島は12月から水面マンタとって周りにマンタが来る。それをショップの店長の方が1月でもいいから、学校の子供たちにぜひ見せたいっていうことで、僕もマンタが黒島に来るのを正直わからなかった。昔からいるっていうことで、海洋教育を通して知れたため、この取り組みっていいなと感じた。

(教委教育課長)

ビーチクリーンについて、課題もあり、子供たちが集めて、学校において、それをまた持っていく、これを何故学校側で実施しないといけないのかと疑義があり、あと働き方改革で土日も出たりといろいろな課題が出てきており、去年からはまちづくり課と連携し、今後は、先生方も生徒も地域の活動の中で参加するような方向に持っていきたいということで、いい案があれば教えて欲しい。

(町長)

このゴミの運搬や処理については、関係課もいないため、改めて適宜運搬をどうするかとか、どこがやるのか等調整をしていきましょう。

**【議事④：その他調整・協議事項について】**

(政策推進課)

これは海洋教育とは別になると思うが、現在、船員不足に備え、船員不足の中長期的な考え方が必要だということで、沖縄総合事務局が町内の小・中学校に対して出前講座をやる計画がある。今年是小浜小中学校が対応いただけることとなっているが、新年度以降、西表島とか、それ以外の地域でも実施していきたいなと思っている。共有しておきたい。

(教育長)

町長へのお願いになるが、教育委員会の定数について、30名に対し29名配置と上限を満たしていない状況がある。竹富町の小中学校は行政規模の割に数が多く、またそれに伴う教職員住宅も非常に多くある。そのため、現在、課長補佐と担当職員で施設管理を対応しているが、なんとかあと1名確保できたらもう少しまく回るのではと考えている。

(町長)

しっかり対応できるように現状を確認しながら、どこがなぜ足りないのかどういう動きをしているのかを改めて確認し、調整していきましょう。

(町長)

教員の指導書・教材本は全国的にも自治体が費用を負担しているのか？電子版を購入し費用を抑えられないのか？

(教委教育課長)

全国同じように指導ができるようにマニュアルがあり、生徒1人でもその学年に係る全教科を購入する必要がある。また、電子版になったとしても基本的に購入額は変わらない。

特記事項